

暁星小学校

【出題傾向分析】

近年の本文は、「太郎くん」を主人公とする日常の出来事のお話や、動物を主人公とする物語風のお話が目立ちます。4～5年前まではお話に並列要素も多く、典型的な「お話の記憶問題」という印象でしたが、ここ数年は並列要素が減り、心情を盛り込んだ、展開にも流れがあるお話になっています。本文量は、近年は概ね600～800字程度です。登場人物は4～5人程度で、語彙も易しめであり、本文内容は難解なものではありません。筆記用具は赤のクーピーペンを使用します。

設問数は、近年は毎年5問で固定しています。選択肢4つの中から1つを選ばせるものがほとんどで、設問難易度自体はそれほど高くありません。4～5年前までは、「～しなかったもの」や「お話に出てこなかったもの」が問われることもしばしばありましたが、近年では見られなくなっています。また、本文の傾向の変化に合わせて、ここ2年で設問の傾向が変わり、心情を問うものや、描写から「どんなふうに行動していたか」を問うものが多くなりました。そのため、心情や描写に注意して聞くことが必要とされます。

設問のカテゴリとしては、具体物・行動／様子がほぼ毎年出題されています。心情・天気・場所（位置）・順序・季節の出題頻度も高めです。反対に、「持ち物の色・模様」が出題されたことはありません。類推が必要な問いは少なく、お話をしっかり記憶さえしていれば、答えられるものがほとんどです。ただ、過去には地図の中に「通った経路を線で書き入れる」設問が出題されたケースも複数あり、これはやや難度が高めでした。

お話の展開と心情表現を正確につかみながら、細かい描写も注意深く聞き取る力が求められていると言えるでしょう。